

自衛隊はイラクから撤退を

イラク選挙でも占領終結が圧倒的

イラクでは占領下、暫定国民議会選挙がおこなわれました。混乱が続くなかで、数%という低い投票率の地方もありましたが、800万人以上が投票しました。「統一イラク同盟」が圧勝しましたが、その公約は「完全な主権を持った統一イラクの実現」「多国籍軍撤退スケジュールの設定」です。

選挙にたいする態度の違いをこえて、「占領の終結」がイラク国民共通の願い

であることが浮き彫りになりました。

37カ国いた外国軍もすでにスペインなど9カ国が撤退し、さらに7カ国が撤退表明しています。こうしたなかで、イラク派兵を続けようとする日本政府の態度は、まったく異常です。

日本の自衛隊を守ってきたオランダ軍も2月21日から撤退を開始しました。自衛隊の宿営地には、すでに9回も攻撃がおこなわれています。

3・20 行動

3月20日はイラク戦争開始2周年。この日、世界各地でイラク戦争に反対し、平和を求める国際共同行動がおこなわれます。平和について考え、行動しましょう!



浄水設備が稼動し、自衛隊が宣伝してきた「給水活動」も、もう必要なくなっている

アメリカがこっそり調査を終了 イラクには大量破壊兵器はなかった!

アメリカがイラク戦争の口実にした「大量破壊兵器」。しかし、アメリカは「見つからない」と判断し、こっそり調査活動を終わりました。こんなデタラメな口実で、10万人もの市民が犠牲になったのです。戦争を支持した小泉首相の責任も重大です。

イラク国民は占領軍の撤退をのぞんでいます。イラク国民が主権を回復したもとの国づくりを、国連中心に復興支援しましょう。